★70年代先進国連続蜂起から
攻勢的世界革命戦争を切り開け！

★世界党―世界赤軍―世界革命戦線を創出せよ！

★国際根拠地―国際地下活動を組織し
蜂起の軍隊を建設せよ！

赤軍

11月21日
7号
1部　50円
購読料10回500円（〒共）

共産主義者同盟赤軍派
日本委員会宣伝局
連絡先
東京都文京区本郷1～29～13
開拓社
TEL 03－813－1864
〔関　西〕　075－231－0431

▲八派共闘を再編・止揚し　蜂起―戦争派へ統合せよ▲

全世界三十数億プロレタリアート人民による反帝国主義―世界共産主義をかちとる、攻勢的世界革命戦争の約束の時代が近づいている。全世界、全国の戦士諸君。大衆的武装闘争が解体され拘束されてきた階級の永き冬の時代こそ、プロレタリアートの、しみつく様な生の希求を闘いに於て解放させる、真赤な情念を燃やし続ける、素晴しい時代ではないだろうか。世界的な権力闘争―社会主義運動が敗北の構図から攻勢的世界革命戦争へ向けて大きく転換しようとしている今、我々は明日からも、この世界革命戦争に向けて先進国連続蜂起―国際内戦―世界革命戦争へ向けて、全力を注いでいる。

四次防、国防白書、自衛隊の沖縄派兵等にみられるごとく、日帝は、70年代に侵入つつも今なおその、わい小な姿をさらし、内からの破産を鮮明化させている八派闘の革命的再編がこれを打ち破り、我々が主張している大衆的蜂起戦争準備運動の内容である。

国際活動を担っている同志達と共に我が革命戦線（準）に結集する戦士達の闘いは、今その巨大な一歩を踏み出そうとしている。

戦争を大胆に宣伝し蜂起戦争統一戦線＝革命戦線の巨大な構築をめざす闘いを突出して担うものとして創出が決意された蜂起宣伝隊（BP隊）が、既に首都圏に於て第一隊が、10／8→10／21→11／15を頂点に日夜権力の包囲の中で革命的に闘いを展開して居り、今、各地方で続々と闘いを開始しようとしている。

我々に残された、わずかばかりの合法宣伝活動を徹底的に利用しつくし、地区革命戦線（準）の突出した公然部隊として、帝国主義の最も危機と矛盾が集中する東京の新宿駅西口地下広場に於て、蜂起戦争発生性＝反帝国際闘争を体現する為の闘いとして、4・28沖縄闘争を闘いぬき、更に、11・14渋谷暴動―11・16安保粉砕闘争へと闘いぬき、11・16闘争の地平を突き破って、11・17―11・19―11・20―11・21―11・22―11・24―11・25―11・26―11・27―11・28―11・29―11・30―12・1―12・2―12・3―12・4―12・5―12・6―12・7―12・8―12・9―12・10―12・11―12・12―12・13―12・14―12・15―12・16―12・17―12・18―12・19―12・20―12・21―12・22―12・23―12・24―12・25―12・26―12・27―12・28―12・29―12・30―12・31―1・1―1・2―1・3―1・4―1・5―1・6―1・7―1・8―1・9―1・10―1・11―1・12―1・13―1・14―1・15―1・16―1・17―1・18―1・19―1・20―1・21―1・22―1・23―1・24―1・25―1・26―1・27―1・28―1・29―1・30―1・31―2・1―2・2―2・3―2・4―2・5―2・6―2・7―2・8―2・9―2・10―2・11―2・12―2・13―2・14―2・15―2・16―2・17―2・18―2・19―2・20―2・21―2・22―2・23―2・24―2・25―2・26―2・27―2・28―3・1―3・2―3・3―3・4―3・5―3・6―3・7―3・8―3・9―3・10―3・11―3・12―3・13―3・14―3・15―3・16―3・17―3・18―3・19―3・20―3・21―3・22―3・23―3・24―3・25―3・26―3・27―3・28―3・29―3・30―3・31―4・1―4・2―4・3―4・4―4・5―4・6―4・7―4・8―4・9―4・10―4・11―4・12―4・13―4・14―4・15―4・16―4・17―4・18―4・19―4・20―4・21―4・22―4・23―4・24―4・25―4・26―4・27―4・28―4・29―4・30―5・1―5・2―5・3―5・4―5・5―5・6―5・7―5・8―5・9―5・10―5・11―5・12―5・13―5・14―5・15―5・16―5・17―5・18―5・19―5・20―5・21―5・22―5・23―5・24―5・25―5・26―5・27―5・28―5・29―5・30―5・31―6・1―6・2―6・3―6・4―6・5―6・6―6・7―6・8―6・9―6・10―6・11―6・12―6・13―6・14―6・15―6・16―6・17―6・18―6・19―6・20―6・21―6・22―6・23―6・24―6・25―6・26―6・27―6・28―6・29―6・30―7・1―7・2―7・3―7・4―7・5―7・6―7・7―7・8―7・9―7・10―7・11―7・12―7・13―7・14―7・15―7・16―7・17―7・18―7・19―7・20―7・21―7・22―7・23―7・24―7・25―7・26―7・27―7・28―7・29―7・30―7・31―8・1―8・2―8・3―8・4―8・5―8・6―8・7―8・8―8・9―8・10―8・11―8・12―8・13―8・14―8・15―8・16―8・17―8・18―8・19―8・20―8・21―8・22―8・23―8・24―8・25―8・26―8・27―8・28―8・29―8・30―8・31―9・1―9・2―9・3―9・4―9・5―9・6―9・7―9・8―9・9―9・10―9・11―9・12―9・13―9・14―9・15―9・16―9・17―9・18―9・19―9・20―9・21―9・22―9・23―9・24―9・25―9・26―9・27―9・28―9・29―9・30―10・1―10・2―10・3―10・4―10・5―10・6―10・7―10・8―10・9―10・10―10・11―10・12―10・13―10・14―10・15―10・16―10・17―10・18―10・19―10・20―10・21―10・22―10・23―10・24―10・25―10・26―10・27―10・28―10・29―10・30―10・31―11・1―11・2―11・3―11・4―11・5―11・6―11・7―11・8―11・9―11・10―11・11―11・12―11・13―11・14―11・15―11・16―11・17―11・18―11・19―11・20―11・21―11・22―11・23

A 路線転換への過程

はじめに (1)

レーニン主義の限界と我々

はじめに (2)

建軍活動の総括

同志諸君！六月以降三ケ月余の集中的な「第二次綱領論争」は、九名の同志によるH・J作戦の成功的貫徹後にすでに開始され、中近東革命戦争とPFLP、BPP等、世界革命戦争派の登場と共に「転換路線」を産みだした。

既に明らかにさせたその内容で未だ充分に明らかにしなかった又、実際にやり切れなかったから転換したのだというプラグマチックな客観主義に陥る傾向を少なからず孕み出している事を批判し建軍に従事する同志を中心に根底的な〝整党運動〟を展開して赤軍の「新たな団結の質」をつくり出す為にも、最初に我々がなぜ、どうして戦略的転換を行ったのかを見なければならないだろう。

H・J作戦後、我々がすでに昨年以降の我々の戦略論に対する検討を始めた直接の契機は、次にあげる四点である。

第一に、70年初頭の日本階級闘争が、四・二八や三里塚闘争に見られた如く、69年末のあの権力闘争の地平からはるかに後退し、戦略的プロレタリア集団内部の修正主義の横行、プロレタリアートの孤立が明確であった事。

第二に、カンボジアから全インドシナへの革命戦争の拡大、中国北朝鮮、北ベトナムの根拠地国家建設に於ける根本的矛盾の激化によって、アジアを中心とする帝国主義打倒社会主義革命運動の前進と先進国プロレタリアートの結合がより一層要求された。

第二に四月を前後して、全共闘―元党派軍団の内部に萌芽的な蜂起派が形成され、他方では平板的な建軍活動方針について、系統的な整理に入る前に、我々は今回の路線転換へのアプローチの過程をふり返り、昨年以降の我々の理論内容的な歩みを総括しておく必要があるだろう。

とりわけ、今回の路線転換が、70年秋前段階蜂起を取り下げた事によって、何か〝赤軍魂〟がなくなったかの様に考えたり、あるいは

世界革命戦争の建設と日本武装(軍一党)

B 対峙段階と世界党―軍建設

70年代世界革命戦争―対峙段階と我々の任務

70年代世界革命戦争の諸段階は60年代後半、先進国で連続的にブロレタリアートが敗北した事と、このプロレタリアートの敗北を通じてブルジョアジーが安保―NATO国際反革命体制の再編を貫徹しようとしている事に規制されつつ、中、後進国の革命戦争の拡大（インドシナ、中近東、中南米）労働者国家の根拠地国家化、先進国革命戦争派の登場をもって、対時段階への突入を示している。

60年代、米帝を頭目とする帝国主義ブルジョアジーは、過剰資本の処理→市場分割戦から帝国主義相互の対立激化―統一的信用機構（IMF）の実質的解体と同時に諸階層の社会排外主義への組織化を押し進めんとしつつも、かかる帝国主義の内在的矛盾の激化が国際反革命軍への結集と他方での世界社会主義の前進をもたらす矛盾を拡大再生産していった。

金融募頭制や資本の対外輸出のみならず、局地侵略、反革命、抑圧戦争を媒介とした経済の軍事化、慢性的インフレ、そして国民経済の統制化と、かつて我々が指摘したものこそ、かかるブルジョアジーの本質であった。

60年代後半の階級戦争で、米・日ブルジョアジーは、西独非常事態立法に似た実質的な大統領、首相への非常事態大権の授与を可能ならしめる闘いを宣し、常備軍と反革命憲兵隊の二重の軍隊の力でプロレタリアートの攻勢を撃破した。

が、このブルジョアジーの局面的勝利は、革命的プロレタリア人民に対する「法と秩序」の勝利をもたらし、社民、スターリニストを動揺、分解させ、且つ、広範なネオ、ファシスト育成には成功したが、一気に国際プロレ革命の再編―反革命憲兵隊の二重の軍隊の力でプロレタリアートの攻勢を撃破した。

が、このブルジョアジーの局面的勝利は、革命的プロレタリア人民に対する「法と秩序」の勝利をもたらし、社民、スターリニストの統制化と、かつて我々が指摘したものこそ、かかるブルジョアジーの本質であった。

60年代後半の階級戦争で、米・日ブルジョアジーは、西独非常事態立法に似た実質的な大統領、首相への非常事態大権の授与を可能ならしめる闘いを宣し、常備軍と

党軍建革命設

戦線路線

世界党―軍組織と我々の日本に於ける党―軍―R・F建設

共産主義者同盟　赤軍派　日本委員会

獄中からの不屈の連帯アッピール

同盟議長　塩見孝也（東拘）

蜂起―戦争派統一戦線の構築の確立に向けて

全国の同志諸君！沖縄・反軍・反革命・侵略戦争の準備を大衆的蜂起準備運動として七〇年闘争へ！

巨大な大衆的蜂起準備運動の始まりと、その登場

関西 10/21 蜂起―戦争派3,500結集！革命戦線関西地方委員会

獄中からの報告

大菩薩第二、二回公判・報告

共産主義者同盟赤軍派救対部

大菩薩公判　意見陳述書　刑行予定

大菩薩第4回公判

●11月25日　午前10時

●地裁701号法廷

★なし崩し的組織破防法を粉砕せよ！

★同盟議長への破防法適用を糾弾せよ！

★獄中同志の蜂起宣言を物質化せよ！

革命戦線

（革命戦線全国通達・改題）

10号　（1部：30円）

★70年代連続蜂起から攻撃的世界革命戦争に向け、大衆的蜂起準備運動を構築せよ！

★蜂起の軍隊に志願せよ！